



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4261 号 2018.3.15 発行



熊本 知的障害者の口座凍結、就労困難に 犯罪に使われ？

毎日新聞 2018年3月14日

ヤミ金業者に銀行口座を売った体験を語る男性＝熊本県内で

熊本県内の知的障害がある男性（34）がヤミ金業者の誘いに応じて銀行口座を売却したところ、口座凍結の通知が来て新たな口座開設ができなくなった。売却した口座が何らかの犯罪に悪用されたためとみられるが、男性は口座開設ができないことで今も就労が困難な状況に陥っている。2008年から犯罪利用が疑われる口座を金融機関が凍結できるようになったが、識者は「男性のようなケースは事情を考慮して新たな口座開設を認めるべきだ」と訴える。【中里頭】

男性は愛知県の工場に勤務していた26歳の時、生活苦から利息が10日で1割つく「トイチ」のヤミ金業者に借金を申し込んだ。その際に業者から「銀行口座を売れば金が手に入る」と持ちかけられ、キャッシュカード2枚を指定された東京都内の住所に郵送した。翌日に「売るのはやめよう」と考え直し業者に電話したが通じず、その後現金約3万円が送られてきたという。

しばらくすると、売却口座の凍結を知らせる通知が金融機関から実家にあった。さらに警察から事情聴取を受けたが、口座がどんな犯罪に使われたのかははっきり分からなかったという。その後、生活に関する悩みを受け付ける電話相談で支援者と出会い、自身に中度の知的障害があることが分かって14年に障害者手帳を取得。生活保護を受給しながら就職を目指しているが、口座がないことが大きな理由となって断られ続けている。男性は「お金に困ってヤミ金に口座を売ったことを後悔している」とうなだれた。

「新規開設、柔軟対応を」

振り込め詐欺やヤミ金などの犯罪利用が疑われる口座は、被害の拡大防止のために「振り込め詐欺救済法」に基づいて金融機関が利用を停止（凍結）できる。場合によっては強制的に口座を解約することも可能で、口座の預貯金は事件の被害者救済に充てられる。

こうした口座の名義人情報は警察から全国銀行協会（全銀協）を通して各金融機関に伝えられるため、名義人の他の契約口座も順次凍結される。全銀協が加盟191行を対象にした調査によると、口座の利用停止や強制解約、銀行が本人の承諾を得て解約したケースは2016年度に5万5838件に上る。

しかし、運転免許証や健康保険証の紛失や盗難で個人情報が出て不正口座を開設されたり、ヤミ金利用者の口座が悪用されたりすることで、犯罪と無関係な名義人の別の口座が誤って凍結されるケースも目立っている。男性のように判断能力が不十分な知的障害者が売却した口座が犯罪に悪用された場合について、福岡銀行は「事情によっては新たな口座開設を認める場合がある」としている。

障害者を支援する山田裕一・立命館大生存学研究センター客員研究員は「知的障害者が

罪の意識がないまま犯罪に巻き込まれるケースはよく耳にする。今回のようなケースは財産を管理する成年後見人がいれば新たな口座開設を認めるなど柔軟な対応をすべきだ」と話す。

施設職員ら加害11件増 高齢者虐待で府がまとめ 大阪日日新聞 2018年3月14日

大阪府は2016年度に府内で起きた高齢者虐待の状況を発表した。福祉施設の従事者などによる虐待が45件（計76人）あり、前年度に比べて11件増えた。虐待の種別では身体的虐待が最も多く、要介護状態の区分が重い高齢者ほど被害が多く発生していた。

虐待の種別（重複あり）では、身体的64人▽心理的13人▽経済的、性的各3人▽介護等放棄1人であった。

虐待を受けた高齢者を要介護状態別に見ると、最も重い「要介護5」が最多の34・2%。認知症日常生活自立度別では、生活に支障があり介護を必要とする「自立度III」の区分が最多の36・8%だった。

被害が確認された施設の内訳は、認知症のある入所者が共同で生活するグループホームが13件と最多で、次いで「特別養護老人ホーム」9件、「有料老人ホーム（介護付き）」6件などと続いた。

家族や親族などによる虐待は、1356件（計1390人）で前年度に比べて78件減少したが、12年度以降は1400件超で推移しており、依然として高止まりの状態が続いている。

安中の姉放置死に懲役7年求刑 産経新聞 2018年3月14日

安中市で昨年2月、介護が必要な知的障害のある姉＝当時（50）＝を妹夫婦が放置し死亡させた事件で、保護責任者遺棄致死の罪に問われた、いずれも同市の無職、佐藤正夫（31）と妻の恵美（32）の両被告の裁判員裁判の論告求刑公判が13日、前橋地裁（国井恒志裁判長）で開かれ、検察側は懲役7年を求刑した。

検察側は、恵美被告の姉の萩原里美さんが寝たきりで重篤な状態というのを知りながら、医療措置などを受けさせることなく放置した2人の犯行態様は悪質と指摘。

萩原さんは死亡時にやせ細り「見るも無惨に変わり果てた」とし、被害結果は極めて重大と非難した。また、2人が萩原さんを引き取ったのは、貯金や障害者年金目当てだったことは明らかだと主張した。

地元食材でノンアレルギーカレー 京都の障害者支援事業所

京都新聞 2018年3月14日
えびいもやナスなどを使って完成させた「ノウフク・ノンアレルギーカレー」（京田辺市興戸・さんさん山城）

京都府京田辺市興戸の障害者就労支援事業所「さんさん山城」が、利用者らが育てた市特産のえびいもやナスで「ノウフク・ノンアレルギーカレー」を作った。食物アレルギーの原因となる小麦や牛乳などを使わないカレーで、18日に同市田辺の中央公民館で開かれる「ノウフクマルシェ」（府主催）で販売する。

さんさん山城が昨年春から事業所内で営業しているカフェの利用者から、子ども向けメニューの要望があり、奈良市の料理研究家や府山城北農業改良普及センターが協力して考案した。

アレルギー物質を含む27種の食材を使わず、小麦粉



の代わりにえびいもを使って、とろみやまろやかさを出した。トマトや香辛料で風味を高め、乾燥ナスとズイキで食感を加えた。

ノウクマルシェは、農業を福祉の現場に生かす「農福連携」に取り組む事業所などが集う。午前11時から午後4時。茶席や事業所などの物販、飲食ブースなどが並ぶ。さんさん山城は、カレー150食（500円）などを提供する。カレーは今後カフェのメニューに加え、事業所そばの農場で香辛料も栽培する計画。

MOTTAINAI 障害者も持ちやすい会津漆器 「楽膳椀」国内外で人気 福島のNPO開発



／福島 毎日新聞 2018年3月14日
開発した会津漆器「楽膳椀」を手にする大竹愛希さん<下>持つと底のくぼみに指が自然にかかり、しっかりと手に収まる＝福島市本町の「まちなか夢工房」で

手に障害がある人や、握力が弱い高齢者や子どもが持ちやすい会津漆器「楽膳椀（らくぜんわん）」が国内外から注目を集めている。おわんの底に指をかけるくぼみが施され、デザインと機能性を兼ね備える。障害者の自立支援に取り組む福島市のNPO法人「シャローム」が職人と数年か

けて開発した。開発に携わったスタッフでデザイナーの大竹愛希（あき）さん（38）は「障害者の視点を伝統工芸に取り入れた、みんなに優しい商品です」と話す。



障害者介護 65歳以上で打ち切り きょう初の司法判断 浅田さん「年齢で扱い異なるのは不平等」地裁／岡山 毎日新聞 2018年3月14日
判決を前に思いを語る浅田達雄さん（左）＝岡山市中区で、高橋祐貴撮影

65歳に達したことを理由に障害者自立支援法（現障害者総合支援法）の介護サービスが打ち切られ、介護保険に移行して自己負担が生じたのは不当な差別で違憲だとして、脳性まひの浅田達雄さん（70）が岡山市による打ち切り処分の取り

消しなどを求めた訴訟の判決が14日、岡山地裁である。弁護士によると、介護保険の優先原則を定めた支援法の規定や、自治体の運用の違憲性を巡る初の司法判断となる。【高橋祐貴】

「重度障害者が人間らしく生きたいと願うのは、許されないことでしょうか。」

65歳で無償打ち切りは違法 障害者支援法の介護、岡山地裁

西日本新聞 2018年03月14日

65歳を境として障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）に基づく無償の訪問介護が打ち切られ、介護保険の利用で一部の自己負担が生じたのは不当だとして、岡山市の脳性まひ患者浅田達雄さん（70）が市の決定取り消しなどを求めた訴訟の判決で、岡山地裁は14日、請求を認め、65歳時点にさかのぼって支援法に基づく給付を命じた。

原告側の代理人弁護士によると、介護サービスの給付に関し、介護保険の優先原則を定めた支援法に基づく自治体の運用の是非が争われた初の司法判断。既に厚生労働省は利用者の実情に応じて柔軟に対応するよう通知しており、この内容を追認した形となった。

＜被災者ケアの現場から＞受診増 人手追い付かず

河北新報 2018年3月14日

東日本大震災の発生から7年がたった。直線的に突き進む復興まちづくりの傍らで、被災した人々はときに立ち止まり、ときに後戻りを繰り返す。日々、重みを増す「心のケア」。その実相を岩手に探った。(盛岡総局・松本果奈)

◎こころ受け止めて(下) 模索続く現場
震災でストレスを受けた子どもたちを診察するいわてこどもケアセンター



＜7割が被災地外＞

岩手県は2013年5月、岩手医大と連携して「いわてこどもケアセンター」を開設した。

東日本大震災で強いストレスやトラウマ(心的外傷)を抱えた子どもに専門的な治療を施す。

だが、新患の受診は半年から1年待ちの状態が恒常化している。震災から時を経て心の病を発症する子どもたち。ケアに当たる人材の確保も大きな課題だ。

県教委が16年度に実施した「心とからだの健康観察」によると、精神的なサポートが必要な児童生徒は県内で1万4167人。11.5%に上った。

八木淳子副センター長は「幼かった子どもが成長してようやく苦しみを打ち明けるケースが、今も一定の割合である」と話す。震災を直接経験していなくても、地域や家庭で大人から強い影響を受けてしまうことがあるという。

本年度のセンターの受診件数は2月末で7021件と過去最高を更新した。受診した子どもの7割が被災地以外の生まれ育ちで、センターの認知度が高まった結果、震災由来ではない子どもの外来が増えた。

「圧倒的に人材が足りない」と嘆く八木副センター長は「トラウマは人との関わりで回復できる障害。医師が足りない地域だからこそ、教育、福祉機関に力を付けてもらいたい」と訴える。

＜支援の曲がり角＞

こうした状況を受けて県は新年度、「子どもの心の診療ネットワーク事業」で受診希望者に幅広く対応できる相談窓口の設置や専門的な人材の育成に乗り出す。

人手不足の悩みは、被災者ケアに取り組むボランティア団体などに共通する。ニーズの変化や資金不足も重なり、支援は曲がり角に差し掛かっている。

大船渡市などで被災者向けに手芸講座を開催してきたNPO法人「夢ネット大船渡」も、人のやりくりができず、3月末で活動を終える。理事長の岩城恭治さん(78)は「心の復興とは言うものの、被災者のための集まりはこうして終わってしまう」と肩を落とす。

被災地で心のケアに取り組む佐々木誠岩手大特任准教授(臨床心理学)は「人は人に癒やされる。支援団体に代わって地域や被災者自身が交流の場をつくり出すのが望ましい」と助言する。

[いわてこどもケアセンター]本部は岩手医大矢巾キャンパス(岩手県矢巾町)。精神科医、看護師ら約20人で運営し、医大と宮古、釜石、大船渡の3市で15歳未満の心のケアに中長期的に携わる。

障害や病気がテーマ、バリアフリー映画祭 17日広島で 朝日新聞 2018年3月14日

障害や病気を取り上げた3本の映画を上映する「バリアフリー映画祭」が17日、広島県三原市円一町2丁目の三原リージョンプラザ文化ホールで開かれる。セリフや効果音を

文字で画面に表示するとともに音声によるガイドもつけ、障害の有無や年齢を問わず、誰もが楽しめる内容にするという。

同プラザでは一昨年、映画「みんなの学校」のバリアフリー上映会を開いたが、映画祭形式での開催は初。担当者は『『バリア』のない社会のあり方について考えるきっかけにしてほしい』と呼びかける。

午前10時＝「校庭に東風（こち）吹いて」（2016年、1時間52分）は不安や緊張から特定の場面で話すことができない「場面緘黙（かんもく）症」の少女と教師の交流を描いた物語▽午後0時半＝「ペコロスの母に会いに行く」（13年、1時間53分）。認知症の母と息子の日常を実話をもとに描いた物語▽午後4時＝「最強のふたり」（11年、1時間53分）。事故で体が不自由になった大富豪と介護する黒人青年を描いた伝映画。

午後2時40分からは「ペコロス」の原作の筆者岡野雄一さん（68）によるトークとミニライブもある。障害者事業所の製品やパン、書籍などを販売するバリアフリーマルシェも同時開催。

各回入れ替え制。405席＋車いす席5席。各回大人1300円、60歳以上1100円、障害者1千円、3歳から高校生600円。前売り券、3枚つづりの回数券あり。問い合わせは同プラザ（0848・64・7555）へ。（宮崎園子）

<わたしの転機>視覚障害者のガイド役 親の看病、子育て、経済苦...「苦労役立てて」



娘が後押し

東京新聞 2018年3月14日

視覚障害がある人と談笑しながら街を散策する和泉沢とも子さん（右）＝東京都台東区で

幸せを夢見るはずの少女時代、母親の看病に明け暮れた。2人の妹の世話もし、アルバイトで家計も支えた。21歳で母を見送り結婚。3人の子育てが一段落したころ、上の娘が言った。「苦労してきた経験を社会に役立てたら？」。東京都台東区のと泉沢とも子さん（70）は視覚障害者の外出をサポートするボランティアに取り組んでいる。

確かに母の看病は壮絶でした。末期の胆道がんでした。看病は私が中学三年生の時から七年間。二人の妹はまだ小さく、父は家を出て行った。私が妹たちを世話し、家具屋でアルバイトをして、母を看病するしかなかったのです。

大きな専門病院もいくつか回りましたがだめでした。最期の時は母は声も出せず、寝る時は、私の手首と母の手首をひもで結び、痛ければ強く引いて知らせるようにしました。私は布団を敷いて寝た記憶がありません。

母を見送った後、普通の暮らしを取り戻しました。二十六歳の時に結婚。三人の子どもを授かりました。手もかかりましたが、皆が成長するまで二十年以上、主婦をしてきました。

友人から「親のがんで...」と打ち明けられ、自分の経験を語ったこともあります。病苦、経済苦、家庭の問題など、若いころに経験し、一つずつ乗り越えてきたから、周りの人の苦しみに真剣に向き合える。

自分の経験を社会で生かす。娘がそう言ったのは、第二の人生を考える時と重なりました。それもそうだとボランティアをやろうと思いました。知人に目の不自由な方がいたことから、区の視覚障害者の外出をサポートするボランティアに参加。その事業が民間に移ったのを機に、二〇〇三年に「視覚障害者ガイドヘルプ事業」を設立しました。

実績を重ね、一二年に「NPO法人ガイドヘルプ『あいサポート』」を設立。理事長となつて、自分もガイドヘルパーを続けています。現在では、介護相談員として、さらには市民後見人として活動の場を頂いております。

私としては目が不自由でも気軽に街歩きを楽しんでもらいたい。そのお手伝いをこれからもしていきたいと思います。

ちなみに、きっかけをくれた娘もNPO事務局で手伝っています。私の背中を押した張本人ですからね。（三浦耕喜）

100歳と101歳の幼なじみ 太田のカフェで誕生会 東京新聞 2018年3月14日
誕生ケーキを前にして笑顔の石川さん（右）と小川さん＝太田市で

百一歳と百歳おめでとうー。

地域の高齢者や障害者らが気楽に寄れる場所をとオープンした太田市の「カフェ尾島」（尾島町）が二十七日で開店二周年になるのを前に「百歳以上のお誕生会」を開いた。市から委託され運営する「NPO法人ウイングおじま」が企画した。

スタッフや常連客の祝福を受けたのは、百一歳の石川馬一郎さんと百歳の小川誠一郎さん。二人はともに同市安養寺町に住むご近所同士の幼なじみでカフェの常連だ。健康で石川さんはカフェまで自転車に乗ってくるという。二人がカフェでそろって長寿を祝われるのは昨年が続いて二度目。

お誕生会は、ボランティアによるキーボードやクラリネットなどの伴奏で「青い山脈」を合唱するなど終始、和気あいあいの雰囲気だった。

二人は笑顔でケーキのろうそくを吹き消した。プレゼントされたブーケを抱え石川さんは「感無量です」、小川さんは「ただただ感謝です」とお礼を口にしていた。（粕川康弘）



訃報 車いすの天才科学者、ホーキング博士死去 76歳 毎日新聞 2018年3月14日

スティーブン・ホーキング博士

「車いすの天才物理学者」として知られ、独創的な宇宙論を発表しつづけた英国のスティーブン・ホーキング博士が死亡した。76歳だった。英主要メディアが14日報じた。

ホーキング氏は英オックスフォード生まれ。学生時代の1960年代に筋萎縮性側索硬化症を発症したとされる。その後も活発な研究活動を続け、79年からケンブリッジ大で



教授を務めている。ブラックホールの蒸発理論などの業績で知られる。障害者用意思伝達装置を活用、サイエンスライターとしても世界的に著名で「ホーキング、宇宙を語る」などの著作がある。

車いすの宇宙物理学者 ホーキング博士が死去 NHK ニュース 2018年3月14日

体の筋肉が徐々に動かなくなる難病になりながら、宇宙の起源やブラックホールなどの研究を続けたイギリスのスティーブン・ホーキング博士が14日亡くなりました。76歳でした。

スティーブン・ホーキング博士は1942年にイギリスで生まれ、オックスフォード大学やケンブリッジ大学で数学や宇宙物理学を学びました。

ホーキング博士は21歳のときにALS＝筋萎縮性側索硬化症と診断され、全身の筋肉が徐々に動かなくなる中、20代後半からケンブリッジ大学で教鞭をとり、ブラックホールに関する理論など数々の論文を発表し、若くして教授にもなりました。

その後、1985年に気管を切開する手術を受けて以降は会話ができなくなりましたが、コンピューターを介して意思を伝えるなどして研究を続けてきました。

ホーキング博士は、理解するのが極めて難しい宇宙物理学の理論や最新の研究についてわかりやすく説明する著作でも知られ、1988年に出版された「ホーキング、宇宙を語る」は日本を始め世界各国でベストセラーとなりました。

さらに、2012年のロンドンパラリンピックでスピーチして障害者の可能性を訴えるなど、社会活動に精力的なことでも知られていました。また2014年にはホーキング博士と家族の半生を描いた映画「博士と彼女のセオリー」が公開され、大きな話題を呼びました。

ホーキング博士は宇宙や生命の起源について研究を続け、世界をリードする知性の一人として生涯にわたって注目されてきました。

所属するケンブリッジ大学などによりますと、ホーキング博士は14日、イギリス東部ケンブリッジの自宅で亡くなったということです。

発達障害の特徴に悩む人のために日常生活を上手に過ごすアイデアを紹介『ちょっとしたことでうまくいく 発達障害の人が上手に暮らすための本』 Sankeibiz2018年3月14日

株式会社翔泳社（本社：東京都新宿区舟町5、社長：佐々木幹夫）は、書籍『ちょっとしたことでうまくいく 発達障害の人が上手に暮らすための本』を2018年3月14日（水）に刊行します。本書は、発達障害の特徴によって日々の暮らしに悩む人のために、上手に日常生活を過ごすアイデアを紹介します。「わかっているのになぜかできない」ができるようになる！

大人になってから発達障害の症状に悩む人が増えています。ここ10年で「発達障害」の知名度が飛躍的に上がったことで、「もしかして自分も…」と大人になってから気づく人が増えたのが最大の要因と思われます。

学業面では問題なく過ごせた（むしろ優秀な人が多い）けれど、社会に出ると、お金やスケジュールの管理、片づけ、ケアレスミスなど、暮らしの「あたりまえ」ができず困っている人も多いようです。

発達障害の人には、「同時並行作業力が弱い」「段取りが取れない」「ケアレスミスをする」「コミュニケーションが苦手」といった特徴があり、これらの特徴が日々の暮らしを送ることを阻害しています。

本書では、そうした症状に悩む人のために、上手に日常生活を過ごす方法を紹介。発達障害あるあるの悩み→その原因→発達障害の特徴をカバーする具体的な解決策の順で解説していきます。

紹介する解決法は、デジタルを使ったやり方や、100円ショップのアイテムで実践できる内容など、ちょっとした工夫で実践できるアイデアばかりです。

■書籍概要

『ちょっとしたことでうまくいく 発達障害の人が上手に暮らすための本』

著者：村上由美 発売日：2018年3月14日 ISBN：9784798154138

定価：1,600円＋税 版型：B5変・160ページ

■著者について

村上由美 上智大学文学部心理学科、国立身体障害者リハビリテーションセンター（現・国立障害者リハビリテーションセンター）学院聴能言語専門職員養成課程卒業。

重症心身障害児施設や自治体などで発達障害児、肢体不自由児の言語聴覚療法や発達相談業務に従事。現在は、自治体の発育・発達相談業務のほか、音訳研修や発達障害関係の原

稿執筆、講演などを行う。著書に『声と話し方のトレーニング』（平凡社新書）、『アスペルガーの館』（講談社）などがある。

ちょっとしたことでうまくいく 発達障害の人が上手に暮らすための本（翔泳社）

■目次

第1章 発達障害は生活障害

- ・生活の悩み-たとえばこんなこと
- ・三次元は面倒くさい-段取りや設定の必要性
- ・仕事との類似点・相違点
- ・自立へのキーポイント
- ・パソコン、スマートフォン、インターネットは発達障害者の三種の神器

- ・ライフスキルとは？

第2章 「時間管理ができない」を何とかしたい

- ・待ち合わせ時刻によく遅れる
- ・時間のやりくりがうまくできない
- ・手帳やスケジュールアプリの使い方がわからない
- ・身支度に時間がかかる
- ・毎週のごみ出しを忘れてしまう

第3章 お金の悩みを解決したい

- ・無駄遣いをしてしまう
- ・貯金ができない
- ・急な出費に慌てる
- ・カードを使いすぎてしまう
- ・外食費がかさむ
- ・引き落とし日を忘れて残高不足

第4章 「片付けられない」を何とかしたい

- ・物をどこに置いたかがわからない
- ・物をどこに置けばいいかわからない
- ・物を捨てられない
- ・ごみの捨て方がわからない
- ・趣味のものがたまってしまう
- ・必要なものがすぐ取り出せない

第5章 コミュニケーションの問題を解決したい

- ・連絡を忘れる
- ・つい余計なことを言ってしまう
- ・話し合いが上手くできない
- ・セールスなどの勧誘によく声を掛けられる
- ・上手に相談ができない
- ・恋人ができない

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行